

第 22 回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議要旨

日 時：平成29年2月17日（金） 15:00～17:00

場 所：横須賀市消防局庁舎 3階第2会議室

出席委員：高橋弘二座長、鈴木副座長、市下構成員、内船構成員、太田構成員、
桐谷構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、橘構成員、奈良谷構成員、
野崎構成員、森構成員、吉田松子構成員、（計13名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、山中、鈴木）

傍聴：なし

◆ 会議の流れ

1 開会

2 報告

（1）「横須賀かんきょうフォーラム 2017」の開催結果について

（2）横須賀E C O大賞の見直しについて

（3）企画提案型市民協働モデル事業について

3 議題

（1）平成 29 年度環境活動者向け人材育成講座について

（2）平成 29 年度「よこすかE C O通信」の記事について

4 その他

（1）事務連絡

◆報告1 「横須賀かんきょうフォーラム 2017」の開催結果について

[要旨]

平成 29 年 1 月 28 日（土）ヨコスカ・ベイサイド・ポケットにおいて、「横須賀かんきょうフォーラム 2017」を開催した。午前の部は表彰式、午後の部では環境活動の発表、県の環境ビデオ上映を行った。フロアには夏休みエコチャレンジ参加校などの活動の展示や「環境ポスターコンクール」入選作品を展示した。

高橋座長

今の報告に対して、ご質問がありましたらお願いいたします。

構成員の高橋正明さんが発表をされたので、お願いします。

高橋正明構成員

横須賀市地球温暖化対策地域協議会に所属し活動しており、10年間の活動の歩みと、こ

れからの温暖化対策について話をした。温暖化対策でパリ協定が締結され、既に承認され実際に動いているインパクトのある条約である。世界各国が参加している条約でこれからの温暖化対策に大事であると説明した。会場は殆どが小中学生だったので、少し難しかったようですが、パリ協定を皆さんに知っていただきたく、触れさせていただいた。

高橋座長

ありがとうございました。

構成員の方で横須賀かんきょうフォーラムに参加された方はいらっしゃいますか。

高橋直人構成員

他事業と重なっていたので、少しだけ、参加しました。

高橋座長

ありがとうございました。それでは、次の報告をお願いします。

◆報告2 横須賀E C O大賞の見直しについて

[要旨]

名称を「横須賀いいね★エコ活動賞」とし、主に、表彰の区分や、授与品を見直した。授与品は「賞状」と「のぼり旗」とする。

高橋座長

横須賀E C O大賞を続けてきましたが、見直しが必要とのことで、見直し案を検討していただき、報告がありました。質問がありましたらお願いします。

鈴木副座長

のぼり旗ですが、漢字ですと堅苦しい感じがするので、ひらがなも検討していただきたい。低学年の方もいるので、検討をお願いします。

奈良谷構成員

旗は1枚ですか。

事務局（笠原主査）

1枚ないし2枚です。但し、市でストックを用意し活動団体がイベント等を行うときに貸出を行う予定をしています。ただ今、ご提案いただいた文字に関しましては、表彰の名

称でもあるので、ひらがなに変えると名称も変えることになってしまう。例えば、ふりがなを入れて作成する方法を考えたい。

野崎構成員

認定こども園というのが横須賀市ではあるのですか。無認可保育所とは違うのか。どのようなものなのか。

橘構成員

幼稚園と保育所が一体になったようなものです。元々幼稚園や保育所だったものが、認定こども園に変わるのが毎年少しずつ増えてきており、今市内で8～10園あります。

国で認定こども園の制度が最近出来、それに当てはまる施設が増えてきています。

野崎構成員

幼稚園は残っているのですね。

橘構成員

幼稚園は3歳から5歳が対象で、保育園は0歳から5歳が対象です。認定こども園は大体0歳から5歳が対象です。保育所とはまた違った基準で認可を受ける園です。認定こども園の中でも何種類かに分かれており複雑になっています。イメージとしては、幼稚園と保育所が一緒になったようなもので、無認可ではないです。

高橋座長

所轄はどちらですか。

橘構成員

厚生労働省です。

奈良谷構成員

こども園だけ認定がついていますが、保育園は無認可がありませんでしたか。

橘構成員

幼稚園、保育所、認定こども園という言葉があります。

野崎構成員

保育園は市立ですか。

橋構成員

現在、横須賀市では認定こども園は私立しかありません。

事務局（小澤課長）

幼保連携ということで幼稚園と保育園を合体させたものを、認定こども園という名称にしているということです。

野崎構成員

大体分かりました。ありがとうございました。

高橋座長

その他ございますか。

先ほど鈴木副座長から漢字、ひらがなの意見がありましたが、「横須賀かんきょうフォーラム」が今年から横須賀が漢字に、環境がひらがなになりました。その移行を先ほどお聞きしたのですが、事務局から説明をお願いします。

事務局（小澤課長）

市長の指示で、ひらがなの「よこすか」よりは、漢字の「横須賀」のイメージを今後全国的に植えていきたいので、ひらがなの「よこすか」を漢字に直していきたいとのことでした。環境フォーラムを見直すということであれば、「よこすか」をひらがなから漢字に変えてほしいとの指示があった。横須賀市全体で漢字化していく指示を受けている。

高橋座長

その他ございますか。

高橋正明構成員

表彰区分で学校短期活動の部ができ、授与品が「賞状」と「のぼり旗」になったが、学校として「のぼり旗」をもらって使い道があるのか、それとも盾の方がいいのか学校の立場としてよく分からない面がある。どっちがいいのかという感じが少しした。一般ですと何かイベントをするときに、のぼり旗を立てるというのは非常に効果があると思う。学校はどうかと感じた。

事務局（笠原主査）

ご指摘の部分はあるが、学校だと教室の後ろにポスターの感覚で貼るなど、のぼり旗として活用しなくてはいけないわけではなく、クラスのシンボルとして掲示板や廊下に貼っていただくのは可能かと思う。もう一つは、市からオールマイティにお配りできるものと

して考えたとき、盾は活動団体の皆さんは事務所的なものがないので、どこに飾るのかということがある。学校ならば校長室など飾る場所があるが、広く一律でお渡しできるといった視点で今回「のぼり旗」とした。

高橋座長

橋構成員、学校でいただいたらいかがか。

橋構成員

環境活動をするときに賞をもらった活動をしていますとのことで、持って出掛けます。盾は持って歩けないので、私は面白いと感じます。

高橋正明構成員

メリットはありそうですか。実際の立場としてメリットがあればいいかと思います。

橋構成員

外にも持ち出せるので活用はできるかもしれません。

奈良谷構成員

ロゴに戻りますが、活動賞ではなく受賞にした方がいいのではないか。

事務局（笠原主査）

これはPRのロゴなので、実際の「のぼり旗」には「受賞団体」を入れたデザインにする予定です。

高橋座長

それでは次の報告をお願いします。

◆報告3 企画提案型市民協働モデル事業について

〔要旨〕

市民公益活動団体から、市内に存在する問題や課題を解決できるような企画を募集し、選考した企画を、市と協働により実施する事業。

環境企画課から【市内の自然環境を生かした、小学校向けの環境体験事業】をテーマに企画を募集した結果、4団体から提案があった。3月に、選考のため、公開プレゼンテーションが行われる。

高橋座長

今の報告に対して、ご質問がありましたらお願いいたします。

三浦半島「自然ふれあい学校」野崎構成員、横須賀「水と環境」研究会は私の所属している団体です。私の考えとしては、公開プレゼンテーションの結果でどこを選ぶ、選ばないではなく、全てを採用し、プログラムを提案して学校側で選ぶのが一番いいのではないかと思う。市民協働審議会が審議し、問題があれば改善し、選ぶのは学校が一番いいのではないかと考える。

◆その他報告 横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン（平成27年度年次報告書）について

〔要旨〕

平成27年度における行政（市）の環境教育・環境学習に関する具体的な取り組みを取りまとめた、「横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン 平成27年度（2015年度）年次報告書」を作成した。

高橋座長

報告事項に関しては以上になります。

それでは、議題に移ります。

◆議題1 平成29年度環境活動者向け人材育成講座について

〔要旨〕

今年度実施する活動者向け人材育成講座について、その内容や構成を議論する。全2回で、第1回目は座学、第2回目は市内研究機関の見学を考えている。

事務局（笠原主査）

この案件に直接は関係していないが、前回議題に挙げた先生向けの人材育成講座について、2点質問をいただき回答を保留にしていたので、ここで回答させていただきたい。

1点目は、昨年、教育研究所と連携し天神島の講座を開催しました。先生にとって受けやすい状態だったのか、全体像が見えないのでよく分からないとの質問でした。昨年8月10日に実施したが、先生が選べる講座は午前中に4講座、午後は8講座ありました。それ以外にも先生のキャリアに応じて必ず受けなければならない講座も含まれていました。つまり、4講座中1講座が天神島のフィールドワークでした。

2点目は、講座の定員を20名にし、すぐに定員に達したが、当日都合が悪くキャンセルもあったが、他の講座の定員はどうかとの質問がありました。先生方が受ける研修に関して定員の制限は特に設けられていない。場所や内容に応じて人数を変えており、講座形式で収容人数の多い場所を設定できるのであれば100人規模の参加も可能である。実験など体験形式のものは20人程度なので幅はそれぞれあります。実際こちらが20名と設定しているのはフィールドワークを伴っているので講師と先生方のバランスを考え、講師1名で10名くらいの先生を見ていただくのが一番いいかと思う。そのような理由から20名で設定しています。講座内容によっては座学も含めるとすると座学を行う場所の収容人数に応じては幅広く30人、40人と増やすことも可能である。教育研究所の市下構成員とも話をさせていただいた。

先日この2点に関して回答できなかったのですが、この場で回答させていただきました。

高橋座長

追加の説明も含めて皆さんからご意見をお願いします。

内船構成員

1回目、2回目ともに対象はどのようにお考えか。

事務局（笠原主査）

この案では、環境活動をされている方を対象とし、一般の方は対象にはしないと考えている。市で団体の方の情報をもっているので直接ご案内をする。また、この内容だと市内職員も興味関心が出てくると思う。例えば市の職員が小学校に出前授業に行ったりするので、現場の状況を知るのに役に立つと思う。一次的には実際に活動されている方、それは自然環境だけではなく、環境面で水道部門やごみ部門で活動されている団体がいると思うので、情報をいただきながら案内させていただきつつ、二次的には市の職員でも実際現場に行っている方がいると思うので、第1回目のテーマでは広く声を掛けて参加いただきたいと思っている。第2回目については、先日、市の職員を対象に、港湾空港技術研究所で施設見学を行ったので、市の職員ではなく活動団体の方に声を掛けることを考えている。

高橋座長

その他ございますか。

高橋正明構成員

2点あります。1点目は第1回の内容ですが、ここでは現状となっていますが、学ぶとすると現状から課題を抽出して対策までもっていくような、そこまでを含めてみんなで学習するような内容になるとより効果が増すと考えるので検討していただきたい。2点目は

港湾空港技術研究所とはどのような内容でどこにあるのですか。

事務局（笠原主査）

港湾空港技術研究所は、久里浜の長瀬にあります。久里浜から開国橋を渡り浦賀方面に抜けるトンネルの手前にあり、研究棟が幾つかあります。

私も先日視察したが、例えば東京湾の干潟の研究で、20年くらい前から何もない状態から人工的に干潟が再生できるのか実験をしたりしている。環境から外れるかもしれないが、土木関係でいくと本物の航空機の車輪部分だけを用意し、アスファルト舗装の上を車輪が何度も往復して、アスファルトの痛み具合をみる。そこから舗装の強度や費用対効果を見たりしている。

最近話題になっているのは、地震が起きて津波が発生すると、その影響はどのくらいあるのか、また、膝下50センチの津波だと人は立っていられるのかなど、ニュースで実験の様子が映し出されたりするが、その実験施設が港湾空港技術研究所の中にあるので、実際に大津波が発生したとき木造やコンクリートの建物が、どのくらいで崩壊してしまうかなどを研究している施設です。

世界でもトップクラス、日本ではここにしかない設備もある。当日どの設備が見られるかはまだ分からないが、港湾面、空港面もあり、国土技術政策総合研究所が同じ敷地内にあるので、土木、港湾、空港系の技術的な面を見ていただけたと思います。

高橋正明構成員

それは国の施設ですか。

事務局（笠原主査）

はい、そうです。

高橋座長

海の日に一般公開をしています。

事務局（笠原主査）

あまり皆さんがご存知でない施設なので、横須賀に世界でトップクラスの研究施設があることを目の当たりにしていただくのは面白いかと思います。それをどのように活動に結び合わせていくかは、こちらからは提供せずに、見ていただいた中で団体の方が一般の見学も受け入れている施設なので、そのようなきっかけになればいい。団体の代表の方何名かに見ていただき、これは面白いので活動の団体のメンバーで行くということもできると思う。なかなか知れ渡っていない部分もあり、今回市の職員が視察したきっかけもあるので、提案させていただいた。

桐谷構成員

今年、港湾空港技術研究所に行けるなら行きたいと思っています。ご存知かもしれないが、横須賀地域研究機関等連絡協議会というものが弊社（日産自動車株）や東芝ライテックさんなど全部で17機関入っています。今、ご紹介いただいた、港湾空港技術研究所や国土技術政策総合研究所も入っています。その他にも電力中央研究所、NTT、JAMSTECや住友重機械工業なども入っています。横須賀には研究所がいっぱいあり、我々も知らないことがたくさんあるので、研究所の見学会をやるときに、この横須賀地域研究機関等連絡協議会を上手く使いながら学びの場を広げていくのもありかと思います。もし必要でしたらお声掛けください。

高橋座長

ありがとうございました。その他ございますか。

これまでの実績を見ると、毎年1回は学校の先生対象の講座もあり、平成25年度以外は年3回実施されているが、来年度は2回になっており、学校の先生対象の講座がないようだが、どのようになっているのか。

事務局（笠原主査）

今回の議題のテーマは「環境活動者向け」とのことで対象は先程説明した方たちになっています。学校の先生向けの講座についてはやらないのではなく、教育研究所主催の講座や日程とのつながりもあるので、本来ならこのタイミングで、報告できれば良かったのだが、現在調整中です。今年の夏、学校の先生の夏休み期間の研修の一コマとして、環境教育という視点をもった講座を1回開催したいと思っています。

高橋座長

3回を2回に減らしたわけではないのですね。

事務局（笠原主査）

はい。

高橋座長

それでは、次の議題に移ります。

- ◆議題2 平成29年度「よこすかECO通信」の記事について
〔要旨〕

平成 23 年度から年 4 回発行している環境情報紙「よこすか E C O 通信」について、平成 29 年度の表紙テーマと活動団体紹介等の記事の内容を議論する。

高橋座長

質問、意見がありましたらお願いします。

活動団体の紹介、市内企業の環境教育の日産追浜工場と東芝ライテックの P R を含めて内容をお願いします。

桐谷構成員

資料 5-3-①のとおり、「日産わくわくエコスクール」を開催しています。以前にもお話ししましたが、メインは神奈川県内の小学校 5 年生を対象に行っています。半日コースで、まず地球環境問題とエネルギーについて 20 分くらい話をした後にキットカーの実験をし、電気自動車はこのように作り、その中で電気を作る、電気を溜める、溜めた電気を使って車を走らせることを、実際物を触りながら学ぶプログラムです。そして実際、小学校の校庭に電気自動車を持ち込み子供たちに乗ってもらいます。子供たちは物を触るといろいろな発見があるようで電気自動車の体験は非常にインパクトがあるようです。毎年 100 数十校やっていますが残念ながら横須賀はまだ 2 校しか応募がありませんので、来年度は横須賀市内の小学校から応募があるといいと思います。

高橋座長

これは、会社の方から学校に出掛けて行くのですか。

桐谷構成員

はい、そうです。車を持ち込み、私も年に 3、4 回行っています。講師、スタッフ合わせて 7、8 人行きます。ボランティア活動として行っています。

高橋座長

橋構成員、いかがですか。

橋構成員

実は、電気自動車に来てもらい校庭で子供たちと乗り回すことをやったことがあります。電気自動車の組み立てをし、太陽電池だったか、そのようなプログラムをやっていたことがあります。子供たちは大変喜んでいました。

高橋座長

情報はどのように知ったのですか。

橋構成員

チラシを学校にファックスか何かで送っていただいたかと思います。様々なプログラムをされていて、工場見学や、組み立て体験や、環境に視点を当てたプログラムなどの紹介があり、申し込みをして開催していただいたことがあります。

桐谷構成員

例えば小学校5年生の生徒の親御さんが日産自動車の関係者だったりすると、そこから情報が入って、開催されるケースがあります。またはインターネットから申し込めるので一度開催していただいた学校はほぼ例年続けるかたちになります。

高橋座長

どの地域が多いのですか。

桐谷構成員

厚木に開発拠点があるので、厚木、伊勢原、相模原、横浜が非常に多いです。

高橋座長

ありがとうございました。

それでは、東芝ライテックの鈴木副座長お願いします。

鈴木副座長

横須賀での活動は2007年から近隣の小学校を対象に行っています。

温暖化、LED照明の講義、膨らませた風船に液体窒素を入れるとどうなるかという実験、汚れた水をきれいにするにはどのようにするかという排水処理の実験と実際の施設の見学、廃棄物の集積所の見学や、10万倍の電子顕微鏡を実際に覗いてみるという体験もしています。

東芝ライテックはいろいろな所に拠点がありますが、鹿沼工場ではLEDの工作教室を行うなど、各拠点で環境教育、環境学習を行っています。

高橋座長

ありがとうございました。

それでは、よこすかECO通信の記事について何かございますか。内船構成員は記事を書いています、ご意見をお願いします。

内船構成員

昨年度から4ページ目は「季節の自然図鑑」とのことで、博物館の自然担当学芸員4名が生き物だけではなく地球科学も含め、年に1号ずつ担当し季節の話題を提供しています。構成員の皆さんからリクエストがありましたら検討しますのでお願いします。

高橋座長

その他ございますか。

今日予定していました、報告事項、議題は終わりましたが、皆さんから何かございましたらお願いします。特になければ、事務局から連絡事項をお願いします。

事務局（笠原主査）

今年度最後になりますので、小澤課長からご挨拶をさせていただきます。

事務局（小澤課長）

1年間、環境教育・環境学習ネットワーク会議にご尽力いただきましてありがとうございます。皆さんの貴重なご意見をいただき進めてまいりました。厚く御礼申し上げます。

今年度の相互交流を生かした人材育成講座では、天神島臨海自然教育園の開園50周年に便乗させていただいて、教員向けの講座と指導者向けの講座を開催しました。構成員の内船学芸員にも講師としてお越しいただきありがとうございました。

天神島の植物や魚や貝、また野鳥や昆虫がいたり、断層があるなど、見るポイントがたくさんあり、有意義でした。現地までのアクセスが難しいのでそれがクリアできれば、今後、環境教育、環境学習のフィールドに使っていただけたと思います。

また、事業者の取り組みにつきましては電力中央研究所に視察に行きましたが、難しい実験を分かりやすく説明していただき有意義なイベントで感謝しております。

よこすかE C O通信は皆さまから情報をいただき、どんどん充実した内容になってきています。更に皆さまからご意見や情報をいただき素晴らしいものにしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

皆さま、第4期の構成員になっており、任期は7月までとなっています。来年度も引き続きよろしく願いいたします。

事務局（笠原主査）

事務連絡が2点あります。

第23回の環境教育・環境学習ネットワーク会議は5月を予定しております。日程調整をご連絡しますのでよろしく願いいたします。

よこすかE C O通信第24号を作成中です。原稿ができましたら皆さまにご覧いただき、ご意見をいただきたいと思います。掲載の関係で何か講座やイベント等ありましたらご連

絡ください。

高橋座長

時間が早く終了したので、皆さんのホットなニュースがありましたらお願いします。

高橋座長

それでは、森構成員をお願いします。

森構成員

資源循環部では、今年度大きく2つ行いました。1つは資源回収のその他の紙の紙袋配布です。このような紙が燃せるごみにされていることが非常に多く、アンケート調査を行った結果、資源回収に出せることを6割くらいの方が知らなかった。資源回収に出せることを周知するために紙袋を配布しました。

また最近始めたのが、水銀体温計の回収です。水銀は有害物質なので取扱いが難しくなっており、回収を1月から開始しました。

高橋座長

新しいごみ処理場の進捗状況はいかがですか。

森構成員

詳しく把握しておりませんが、建設中です。平成31年度中には稼働予定です。

高橋座長

野崎構成員をお願いします。

野崎構成員

環境教育の指導者として登録している方で、市から要請があった場合は市の記録として残っていると思いますが、学校から直接依頼があった場合、市では把握していない環境教育の現場があると感じている。学校の先生方が環境教育に熱心に身を入れてやっているの、情報が集まると他の学校の活動を情報として受け取ってもらえ、先生方の活用の仕方が変わってくるのではないかと。すくい上げできないか。

今年、大楠地域の芦名堰の活動で大楠小3年生が年間4回来て、外来植物の駆除や水の調査について実際活発に動いていました。地元の学校から地元の活動団体に直接話がくるが、市へ情報を集める方法はないか。

高橋座長

野比の田んぼもそうですね。3校くらいが田植えを行っています。

野崎構成員

沢山池などもやっているかと思います。小学校の環境学習としていろいろな所で行われているかと思います。

事務局（小澤課長）

現在、環境学習指導者の人数が増えない状態にあるのですが、今のお話だと環境学習指導者の登録をしていない方もそのような活動をされているということですね。こちらに情報をいただき登録をしていただいて、活動の情報をいただき、指導者派遣事業の扱いにすると少しですがお金をお支払いできます。環境学習指導者も減ってきているので、情報をいただくと指導者も増え、事業に生かすことができるかと思います。そのような情報を各団体に照会するのが一番いいのか。

野崎構成員

自然環境の活動団体に学校関係で環境学習に関わった報告をまとめて、自然環境団体の連絡会で各団体に資料として出してもらいまとめるのも一つかと思う。

事務局（小澤課長）

こちらが把握していないところで環境教育活動をやっている方がいるわけですね。こちらが報告書をまとめている以外にあるということですね。情報をいただければ学校にも情報がいきますのでぜひやっていきたいと思う。考えたいと思います。

奈良谷構成員

秋谷の漁師仲間が何人かおり、秋谷から長者ヶ崎の間はサザエがいないとか、ここにはワカメがあって、ここにはないとかの話は直接現場の方から聞きました。

同じ相模湾の狭い区間でも海藻の生え方が違うとか、また貝類がいる、いないの情報を漁師さんは潮の流れや経験からつかんでいます。環境学習に情報として流せたら面白いかと思います。

高橋座長

市下構成員お願いします。

市下構成員

環境企画課で計画した天神島の研修は人気が高かった。同日、私が講師をした「はじめての理科実験」の講座は参加者が4人でしたので、比較すると大変な人気だと思います。

来年度はまだしっかり決まっていないうだが魅力ある講座を作っていたらと思うので、教育研究所でも応援していきたいと思っています。その他の研修は博物館の学芸員の方に色々教えていただきながらやってきました。

また、横須賀市環境学習プログラムを今年度新しくしていただいた。冊子で配るのではなくネットで載せるとのこと、教育研究所で管理している先生方が見るイントラネットの中で環境学習プログラムのリンクを貼り、先生方にも見やすくしました。これから周知をしていきたいと思っています。

高橋座長

太田構成員をお願いします。

太田構成員

10年に1回「学習指導要領」が改定になるが、改定案が出ました。

2020年から小学校で実施されるための準備が始まっていて、「学習指導要領」に書かれている文言や言葉は子供たちの教育に大きな影響があります。

教えてもらい続けるような「受け身」の学習ではなく、自分たちで何を学ぶのか、どのように学んだのかが重要視されるようになります。

環境や自然という言葉も「学習指導要領」の文言に出てきています。子供たちが身近な自然に興味や疑問をもち、その疑問を「何故こうなるのだろうか」と実際に活動しながら理解していく。環境教育の大事なところを求められてくるのだろうかと思う。またご協力をお願いいたします。

高橋座長

高橋直人構成員をお願いします。

高橋直人構成員

今年の夏に神奈川県で社会教育研究の全国集会があるのですが、その打ち合わせに行った時に、環境フォーラムの表彰式を見てきたことを話すと、横須賀の活動にかなり関心を示す方がいました。地域活動している団体や企業、学校、そして行政と一緒に会議を行っていることにとっても関心を示されました。研究者はいるのかなどといろいろな質問をされましたが、そのようなことからでも横須賀の環境教育、環境学習を発信できる機会がもてればよいと思います。

高橋座長

高橋正明構成員をお願いします。

高橋正明構成員

天神島の見学会に参加したが、とても良かった。特に良かったのは、自然に対して愛情をもっていることと、様々な知識をもって色々教えてくれる。あのような機会をもっともっと増やすといいと感じました。最近の報道で天神島のビジターセンターは続くと出ており本当に良かった。私もどんどん応援していきたい。参加して良かったです。

高橋座長

皆さんからお話をいただきましたが、これに関連して事務局からございますか。

事務局（笠原主査）

全体を通して皆さんからご意見をいただきましたので、1つでも吸い上げて何かできればと思っています。これからも様々なご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

高橋座長

ありがとうございました。

これもちまして、第22回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了します。ありがとうございました。